

## 第5 洞爺湖有珠火山マイスターが活動する環境を整える

洞爺湖有珠火山マイスター制度は、認定して終わりではなく、洞爺湖有珠火山マイスターの知識や経験、ガイド技術などを生かした活動を通じて地域に貢献することが目標です。しかし、個人の努力のみでは、活動に限界があることから、活動する環境やルールを整え、洞爺湖有珠火山マイスターの地域での活動を支援していきます。

### 1. 洞爺湖有珠火山マイスターについて知ってもらう

まず、洞爺湖有珠火山マイスターや洞爺湖有珠火山マイスター制度について知ってもらい、正しく理解してもらうことが、活動環境づくりの第一歩で、あらゆる機会を捉えてPRしていくことが必要です。

また、洞爺湖有珠火山マイスターの活動状況について、情報収集と共有化を図り、マイスターの活動に関する外部からの問い合わせに対応することも重要です。

### 2. 地域防災リーダーとしての活動を支援する

洞爺湖有珠火山マイスターは、地域の防災活動に対する助言・協力や、防災講演会や火山学習会などの講師など、防災教育のリーダーとしての活躍が期待されます。

そこで、洞爺湖有珠火山マイスターには地域の防災教育に関する情報を伝え、防災教育の主催者には洞爺湖有珠火山マイスターが実施可能な学習メニューなどの情報を伝えるなど、円滑な情報の橋渡しにより両者のマッチングを図ることが必要です。

### 3. 立ち入り規制区域への入域要件に洞爺湖有珠火山マイスター制度を位置づける

有珠火山地域の立ち入り規制区域への入域要件に、洞爺湖有珠火山マイスター制度との関わりを位置づけることも、洞爺湖有珠火山マイスターの活動の範囲を広げる観点で有効です。

なお、入域要件の検討に当たっては、有珠火山防災会議協議会において、地元合意を形成していくことが重要と考えられます。

(検討の視点)

- ・ 規制の目的を明確にすること。
- ・ 規制範囲の検討は、自然の保全と、危険区域の明確化という両面の観点が必要。
- ・ 規制のレベル分けも考えられる。

(考えられるルール)

- ・ 洞爺湖有珠火山マイスターの同行
- ・ 入域目的～保全、防災、教育に限るなど
- ・ 自然を保全するための制限～1回の人数や年間総数の制限など

- ・入域者の安全を確保するための制限～氏名の報告、時期や時間の制限など
- ・その他の制限～主催団体の特定、傷害保険加入やヘルメット着用の義務づけなど

#### 4. 質の高い火山ガイドとしての活動を支援する

洞爺湖周辺地域は、年間500万人もの観光客が訪れる道内有数の観光地であり、火山との共生の歴史や噴火災害遺構、地質遺産は国際的にもユニークなものです。観光客のニーズが体験型や知的探求型に変化する中、より学びたい者の有珠火山に対する知的好奇心を刺激したり体験型修学旅行を呼び込むため、洞爺湖有珠火山マイスターは、質の高い火山ガイドとしての活躍が期待されます。

そこで、有珠火山の正しい情報や隠れた魅力を地域外に発信する役割を持つ洞爺湖有珠火山マイスターの活動を、旅行エージェントや学校関係者などに広く紹介していくことが必要です。

#### 5. エコミュージアム構想との連携

有珠火山に関する正確な知識を伝え地域防災力を向上させようとする洞爺湖有珠火山マイスターの活動は、エコミュージアム構想の推進にも資するものです。特に「火山の恵みエリア」においては、サテライト（見どころ）における質の高いガイドとして活躍するなど、この構想を推進する「洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会」と連携して、活動の可能性を広げていくことが大切です。

##### 【エコミュージアム構想とは？】

恵まれた自然や、縄文から続く歴史と文化など、ありのままの地域資源を展示物として活かし、地域全体を「自然博物館」としていこうというもので「火山の恵みエリア」「大地の恵みと文化エリア」「先人の歴史と海の恵みエリア」の3つのエリアからなる。

#### 6. ジオパーク登録活動との連携

洞爺湖有珠火山マイスターの活動は、ジオパークの登録条件の一つとなっている地質遺産の保全・利用活動と重なるものがあります。今後、洞爺湖有珠火山マイスターが、防災教育の分野でジオパークの保全・利用活動を担うなど、ジオパークの登録に向けて活動する「洞爺湖周辺地域エコミュージアム推進協議会」と連携して、活動の可能性を広げていくことが大切です。

##### 【ジオパークとは？】

ユネスコがすすめる科学的に貴重な地質遺産のある自然公園のことで、いわば「世界遺産の地質バージョン」。単に貴重な地質遺産があるというだけでなく、地質遺産を「保全」、「教育に利用」「観光に活用」して地域の活性化を目指すことが登録の条件となっている。

#### 7. その他

(1) 教材となる資料の収集や教材の開発

ガイド本の作成、講座テキストの作成、噴火体験のデータ化と保存などが、養成講座等のレベル

維持のため有効と考えられます。

- (2) 洞爺湖有珠火山マイスター制度のイメージマーク（シンボルマーク）や携帯カードの作成は、火山マイスターの認知度向上に効果があると考えられます。